

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅰ

児童 1年1組 男子19名 女子16名 計35名

指導者 田村 芳

1 単元名 おきにいりのじどう車をともだちにしょうかいしよう！

中核教材：「じどう車くらべ」

補助教材：「はたらくじどうしゃ30」 他

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、「C 読むこと」の指導事項イ「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」及び、指導事項エ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」について主に扱い、主となる目標を「自分の知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みがなぜそうなっているかを文章から見つけながら読むことができる。」と設定した。

主教材「じどう車くらべ」は、4つの意味段落からなり、3種類の自動車について「しごと」と「つくり」が同じ順序でくり返し説明されているので、事柄の順序を考えながら読み進めやすいという特徴をもっている。

第1・2学年で順序を考えながら内容の大体を読む学習をすることは、第3・4学年での要点の把握や段落相互の関係を把握する学習につながっていく。

(2) 児童について

初めての説明的文章「くちばし」では、「問い」と「答え」の関係を確かめながら、内容の大体を読むことをねらいとし、学んだことをいかして「鳥のくちばしクイズ」を作るという言語活動を位置付けた。その中で児童は、絵や写真からくちばしの様子を表現することや、教材文から大事な言葉や文を書き抜くことができるようになった。しかし、書かれている事柄の順序を考え内容の大体を読むことや、本や資料から必要な情報を適切に選び出すことは、まだ十分に身に付いていない。

そこで本単元では、教材文での学習を基に、本の中から自分に必要な情報を確かに読む力を高めたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、「自分の知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、事物の仕組みがなぜそうなっているのかを文章から見つけながら読む力」を身に付けるため、「おきにいりのじどう車をともだちにしょうかいしよう！」という言語活動を位置付ける。「紹介カードを書いて交流する。」というゴールを目指し、教材文で学んだ事をいかし、単位時間の後半には自分が選んだ本の中の「しごと」と「つくり」を読む時間を設定する。

紹介カードを完成させるために、毎時間導入の中で、本時が完成に向けてどの段階で、何ができれば達成できるかを「見通す」時間を位置付ける。展開では、自分達の本を読む際、教材文での学びをどういかすか「振り返る」時間を位置付ける。終末では、本時の目標を達成できたか、分かったこと、次時で頑張りたいことを「振り返る」時間を位置付けることで、ゴールに向かい主体的に学ぶ力が育つと考える。

3 単元の目標

- 知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、じどう車の仕組みなどについて説明した本や文章を読もうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 自分の知りたいことや興味をもったことに関する情報を得るために、じどう車の仕組みがなぜそうなっているのかを文章から見つけながら読むことができる。 【読むこと】
- 平仮名及び片仮名を正しく読むことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 指導計画（おきにいりのじどう車をともだちにしょうかいしよう！：10時間扱い 本時 4/10）

次	時間	学習活動
一	2	教師の提示するじどう車紹介カードのモデルから、学習の見通しをもつ。
二	6	じどう車紹介カードを作るために、教材文を読んで書く方法を学び紹介カードに書く。(本時第2時)
三	2	紹介カードの内容を見直して清書し、友達と交流する。

5 本時の指導について

(1) 目標

トラックの「しごと」と「つくり」を読む学習を生かして、本の中からじどう車の「しごと」について書いてある文を探すことができる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手立て
読む能力	本の中から「しごと」について書いてある文を見つけ、サイドラインを引いている。	展開時の振り返りで確認したことを板書し、確認させる。ペアでの交流や友達の発言を聞く事で、探す手がかりとさせる。

(3) 指導の構想

教材文を使った学習の後、紹介カードを作るために本から「しごと」を探す活動を行う。活動の前に、文型に着目することや、「つくり」を知ることが「しごと」を見つける手がかりになることを振り返り、個々の活動にいかす。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導入 5分	1. 前時の学習を想起する。	全	○バスやじょうよう車の「しごと」と「つくり」を確認する。 ☆紹介カードの完成に向けて、本時は本から「しごと」を探す学習をするという見通しをもたせる。
	2. 本時の課題を確認する。		
展開 35分	トラックの「しごと」と「つくり」をよみ、ほんからおきにいりのじどう車の「しごと」を見つけよう。		
	3. 課題解決の見通しをもつ。	全	☆前半は、教材文の「しごと」と「つくり」を読み、それを生かして後半は、本の中から自分が紹介したいじどう車の「しごと」を見つけるという学習の流れを確認する。 ○「～を～する」という文型に着目させる。 ○「ひろいにだい」や「タイヤがたくさん」あるわけを考えさせ、仕事のためのつくりになっていることを押さえさせる。 ☆文型に気をつけて読むこと、「つくり」がついているわけが「しごと」になることを確認する。 ○「つくり」にまず着目させ、なぜそれがついているかを考えながら、「しごと」をさがすようにさせる。 ●【読むこと】 紹介したいじどう車の「しごと」が書いてある文を本から見つけることができる。(サイドライン・発言)
	4. 課題を解決する。		
	(1) トラックの「しごと」と「つくり」について考える。		
	(2) 「しごと」と「つくり」の関係性について考える。		
(3) 「しごと」をさがす手がかりについてまとめる。			
終末 5分	(4) おきにいりの車の「つくり」について、ペアで交流する。	ペア	☆板書で本時の学習を振り返り、自己評価を行う。
	(5) 「しごと」が書いてあるところを見つけ、サイドラインを引く。	個	
5分	5. 学習を振り返る。	個	○「しごと」や「つくり」の似ているところや違うところを見つける学習を確認する。
	きゅうきゅう車には、ベットや赤色灯がついているから、「びょうきの人をいそいでびょういんにはこぶ車」だとわかった。		
	6. 次時の学習について知る。		